

校長の想い7月

伸び悩んでいるのは伸びている証拠

島でハマカンゾウの花を見かけるようになりました。私は、そのあざやかなオレンジ色を見ていると、いつも夏の予感を感じます。

さて、3年生が進路に向けて一生懸命に頑張っている様子を見かけます。若者が頑張っている姿はとても素敵で、見ているだけでこちらもやる気を頂くことがしばしばあります。

頑張っている本人たちは、本当に進路を実現できるかという不安を抱えながらの毎日であると思います。

そこで今日は「実力をつけているのだろうか？」という疑問を抱えている人たちに聞いて欲しいことがあります。

それは、「悩んでいる時は、実力を伸ばしている証拠である。」という事です。

私は夜間部の大学に通っていました。ある日の夜、授業が終わって電車に乗ると小学校時代の同級生と会いました。その人は、小学校の時から卓球に打ち込んでいて、中学校でも活躍し、高等学校でも関東大会にシングルスで代表になるような実力の持ち主でした。

大学は、関東学生リーグで1部リーグに所属する伝統校に進学しました。

その日、彼は練習の帰りで電車の中でもとても疲れている様子でした。

隣に座った私に彼は言いました。「伸び悩みだよ。」

きっと学内では、実力のある選手がたくさんいてどんなに練習しても、自分が納得するだけの十分な結果が得られないのでしょう。

でも「継続は力なり」というように、うまくいかないことがあってもあきらめずに努力している時は、自分では実感が持てないけれども「伸びている」のだと私は思いました。

その後、彼は卓球の実業団でも有名な会社に入社して、監督まで務めました。